

「定員」を理由にした高校つぶしに反対し 府立学校条例の抜本的見直しを求める請願書

【請願趣旨】

大阪では、この6年間に、池田北高校、咲洲高校、西淀川高校、大正高校、柏原東高校、長野北高校と6つの府立高校の募集停止・廃校、勝山高校の募集停止・多部制単位制新校への改編が強行されました。これは「志願者が募集定員に満たない」ことを理由に行われたものです。その背景には2012年3月に施行された府立学校条例第2条の「入学を志願する者の数が3年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善の見込みがないと認められるものは、再編整備の対象とする」の規定があります。

しかし、そもそも子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」に「ゆとり」があるのは当たり前です。府教委自身、府立高校の募集学級数決定にあたって「進学セーフティネット」の立場から、進学予定者数を上回る募集を行っており、「定員に満たない高校」が生ずるのは制度上の必然です。2017年度に募集停止決定された柏原東高校の2015年度の「定員割れ」は240名募集でわずか9名、同じく長野北高校の2016年度は3名に過ぎません。このようなわずかな「定員割れ」を理由に、地域で大切な役割を果たしている学校を廃校にするなど、他都道府県には例がありません。また、大阪では、他都道府県で進んでいる30人学級や35人学級など少人数学級も、エンパワメントスクールや工科高校など一部を除けば実施されておらず、学校規模も1学年平均8クラスと全国平均の6クラスを大きく上回る過密・過大状況となっています。「少子化」をチャンスに、少人数学級や学校規模の縮小など教育条件の改善こそ行うべきです。

「定員」を理由にした高校つぶしは、過酷な競争教育のなかで下位に置かれた子どもたちの「学ぶ権利」を奪うものです。また、高倍率の入試で、あえて「不合格者」を生みだし、子どもたちを傷つけるものです。学校には、生徒獲得競争が強いられ、教職員の長時間・過密労働が増大し、「対外的アピール」重視が教育をゆがめています。これらの元凶となっている府立学校条例はただちに見直すべきです。

【請願項目】

1. 「3年連続して定員に満たない高校は再編整備の対象」としている府立学校条例を抜本的に見直し、「定員」を理由にした高校つぶしは行わないこと。
2. 「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画（2019年度～2023年度）」を抜本的に見直し、「府立高校・市立高校あわせて8校程度の募集停止」方針を撤回すること。
3. 「少子化」をチャンスと捉え、35人学級実施、学校規模の縮小など、すべての府立高校の教育条件を改善すること。
4. 募集停止が実施された学校の教育条件を低下させず、生徒が卒業まで安心して高校生活を送れる学校環境を保障すること。

【請願者】

年 月 日

氏名	住所